

ペレットストーブの普及をめざして
～国有林ができること～

上川中部森林管理署
今廣佐和子

1. 課題を取り上げた背景

日本のエネルギー消費量で一般家庭が占める割合は大きく、一般家庭へ木質バイオマス燃料を普及させることは必須である。木質バイオマス燃料の中でも取扱いが容易な「木質ペレット」及びその燃焼機器である「ペレットストーブ」は、一般家庭への普及に最適であると思われるが、全国的にも北海道内でも普及はあまり進んでいない。北海道森林管理局管内においても、木材利用促進の一環として事務所・署等へペレットストーブを33台配置しているが、それらがペレットストーブの普及に貢献しているとはいえない状況にある。

そこで本発表では、持続可能社会を目指すうえで重要と考えられるペレットストーブについて普及が進まない原因や近年のペレットストーブを巡る動き等を整理しながら、北海道の国有林はペレットストーブの普及を促すためにどのような取組みができるかを考察する。

2. 取組みの経過

ペレットストーブを配置している北海道森林管理局管内の全事務所・署等において、ペレットストーブの使用感やPR状況等、ペレットストーブに関するアンケート調査を実施。

3. 実行結果

アンケートの集計結果は主に以下のとおり。

- ペレットストーブを使用していて、問題点や不都合がある：86%
- ペレットストーブを利用してよかった点がある：68%
- ペレットストーブの展示に対して来庁者から問い合わせがある
：5箇所（設置事務所・署22箇所中）

4. 考察

【1】アンケート結果から得られる考察

アンケート結果によるペレットストーブの課題は、①ペレットストーブ本体の問題と燃料補給やメンテナンス等の負担の大きさを解消すること、②ペレットストーブの利点は、「癒し効果」や「温まりやすさ」など実際にストーブを見て触れてみないとわからないことが多いこと、③現在の署等での展示ではPR効果が得られていないこと、がわかった。

【2】北海道国有林としてできることは何か？

■効果的なPR

現在のペレットストーブ展示方法が木材利用拡大のPRに貢献しているとは言えない。林業関係者に対してはもちろんのこと、一般の方々に対しても、ペレットストーブを見てもらうための「外向け」のPRが必要である。

■市町村への協力

公共施設や一般家庭へのペレットストーブ導入を促進して循環型社会を目指している道内の市町村は多い。国有林は今後このような市町村へ積極的に協力していく必要がある。

■よりよい流通・生産システムの構築

ペレットストーブの普及促進のためには、その燃料となる木質ペレットの安定供給が不可欠。国有林は原材料生産者として、木質ペレットの生産・流通がスムーズに行われるような仕組みづくりを検討する必要がある。